

日 薬 情 発 第 1 号  
令和 2 年 4 月 1 日

都道府県薬剤師会会長 殿

日 本 薬 剤 師 会

会 長 山 本 信 夫

( 会 長 印 省 略 )

ポリファーマシーに係る一般の方向け啓発資材の活用のお願いについて

平素より、本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

標記について、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課、日本製薬工業協会、一般社団法人くすりの適正使用協議会より、別添のとおり通知がありましたのでお知らせいたします。

高齢化の進展に伴い、医薬品の多剤併用による有害事象が生じるポリファーマシーの問題が増えています。ポリファーマシーに対しては、薬剤師がその職能を発揮して医薬品の適正使用を推進することで患者に貢献することができます。また、その存在を一般の方に正しく理解していただくことも重要です。

一般社団法人くすりの適正使用協議会が作成、公開している一般の方向け資材へのリンクを日本薬剤師会のホームページに掲載いたしました。

(<https://www.nichiyaku.or.jp/pr-activity/document/booklet.html>)

会務ご多用のところ恐縮ながら、貴会会員にご周知下さるようお願い申し上げます。



事務連絡  
令和2年3月24日

公益社団法人 日本薬剤師会 御中

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課

ポリファーマシーに対する啓発資材の活用について

標記について、添付のとおり、各都道府県衛生主管部（局）等宛てに事務連絡を发出了したので、会員及び関係者への周知につきご配慮いただきますようお願いいたします。

事務連絡  
令和2年3月24日

各 〔 都 道 府 県  
保健所設置市  
特 別 区 〕 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課

ポリファーマシーに対する啓発資材の活用について

薬事行政の推進につきましては、平素から格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

高齢化の進展に伴い、加齢による生理的な変化や複数の併存疾患を治療するための医薬品の多剤服用によって、安全性の問題が生じやすい状況にあることから、平成29年4月に「高齢者医薬品適正使用検討会」（以下「検討会」という。）を設置しました。そのような多剤服用の中でも害をなすものを特に「ポリファーマシー」と呼び、検討会において高齢者の薬物療法の安全確保に必要な事項の調査・検討を進めています。

今般、広く国民の皆さまにポリファーマシーに対して関心を持っていただくための啓発資材を日本製薬工業協会及びくすりの適正使用協議会が作成し、検討会の確認を経た上で厚生労働省ホームページ

（[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_10074.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10074.html)）に掲載いたしました。つきましては、国民・都道府県民に医薬品の情報提供を行う機会等におきまして、本資材をご活用いただきますようお願い申し上げます。

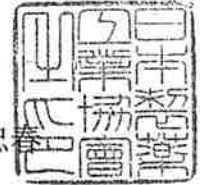
2020年3月24日



公益社団法人日本薬剤師会  
会長 山本 信夫 様

日本製薬工業協会

理事長 伍藤 忠春



一般社団法人くすりの適正使用協議会

理事長 俵木 登美子



ポリファーマシーに係る一般の方向け啓発資材の活用のお願いについて

拝啓 時下ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より、日本製薬工業協会及び一般社団法人くすりの適正使用協議会の活動にご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、ポリファーマシーの問題につきましては、厚生労働省において、2017年4月に「高齢者医薬品適正使用検討会」を設置し、安全性確保に必要な事項の調査・検討を進め、2018年5月に「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」が、2019年6月に「高齢者の医薬品適正使用の指針（各論編（療養環境別）」）が取り纏められています。これらの指針は、医師、歯科医師、薬剤師を対象としてまとめられたものですが、同検討会においては、患者、一般国民へのポリファーマシーに係る啓発の重要性についても指摘されています。

日本製薬工業協会及び一般社団法人くすりの適正使用協議会では、今般、医薬品の適正使用の推進のため、ポリファーマシー問題の専門家である東京大学の秋下雅弘教授及び厚生労働省に監修いただいて、一般の方向けの啓発資材を作成いたしました。

つきましては、貴会会員において、薬局窓口への配架、各種イベント・勉強会等での配布など、啓発活動に積極的にご活用いただけますよう、周知をよろしく願いいたします。

なお、啓発資材は一般社団法人くすりの適正使用協議会のホームページ（URL：<http://www.rad-ar.or.jp/use/polypharmacy/>）に掲載しておりますが、貴会ホームページへも掲載いただき、活用いただけますよう、よろしく願いいたします。

敬具

## 相談する時は具体的にどうすればいいの？

- 使っているくすりは、必ず全部伝えましょう。くすり以外で毎日飲んでいる健康食品やサプリメントがある場合は、その情報も伝えましょう。



- いつ頃から、どのような症状が出てきたのか、気になる症状についてメモしておきましょう。

## 目頃から、注意しておくことは？

- 目頃から、かかりつけの医師や薬剤師を持って、処方されているくすりの情報を把握してもらっておくのが安心です。
- 自分の処方されているくすりかわかるように、お薬手帳を持ちましょう。お薬手帳は1冊にまとめておきましょう。

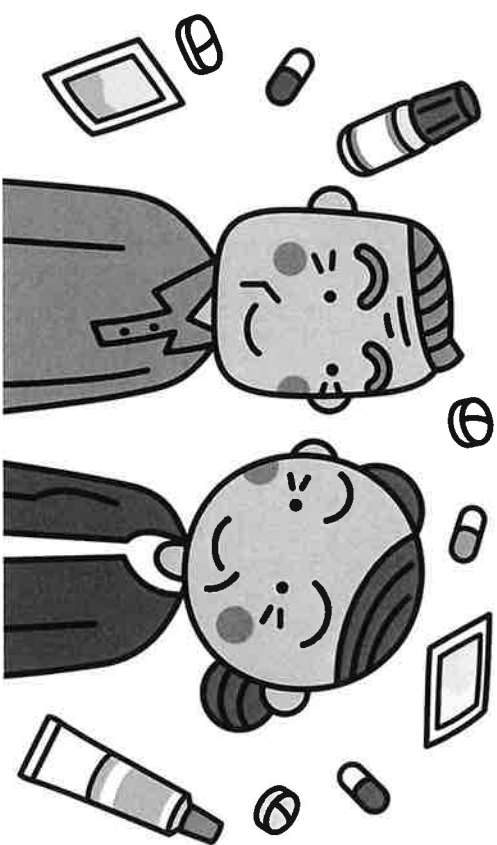


もっと詳しいことが知りたい方は、一般社団法人日本老年医学会のホームページに掲載のパンフレットをご覧ください

多すぎる薬と副作用



# あなたのくすり いくつ飲んでいきますか？



高齢になると、くすりの数が増えて  
副作用が起こりやすくなるので  
注意が必要です。

監修：東京大学大学院医学系研究科老年病学教授 秋下 雅弘

厚生労働省

制作：一般社団法人 くすりの適正使用協議会  
日本製薬工業協会

## なぜ、高齢者ではくすりの数が増えるの？

高齢になると、複数の病気を持つ人が増えてきます。病気の数が増え、受診する医療機関が複数になることもくすりが増える原因となります。

75歳以上の高齢者の4割は5種類以上のくすりを使っています。高齢者では、使っているくすりが6種類以上になると、副作用を起こす人が増えるというデータもあります。

### 「ポリファーマシー」って聞いたことがありますか

多くのくすりを服用しているために、副作用を起こしたり、きちんとくすりが飲めなくなったリしている状態をいいます。単に服用するくすりの数が多いことではありません。



### なぜ、高齢者では副作用が起こりやすいの？

高齢になると、肝臓や腎臓の働きが弱くなり、くすりを分解したり、体の外に排泄したりするのに時間がかかるようになります。

また、くすりの数が増えると、くすり同士が相互に影響し合うこともあります。



そのため、くすりが効きすぎてしまったり、効かなかつたり、副作用が出やすくなったりすることがあります。

## 「なにが変だな」「いつもと違う」と感じたら？

くすりを飲んでいて、次のような症状が気になることはありませんか？くすりが追加されたり、変わったリした後は、特に注意しましょう。



### 医師、薬剤師に相談

気になる症状があっても、勝手にくすりをやめたり、減らしたりするのはよくありません。くすりが多いからといって必ず減らすべきということではありません。くすりによつては、急にやめると病状が悪化したり、思わぬ副作用が出ることもあります。必ず、医師や薬剤師に相談しましょう。



必ず、医師や薬剤師に相談しましょう。

# あなたのくすり いくつ飲んでいますか？



監修：東京大学大学院医学系研究科老年病学科（以下、東京大）  
厚生労働省  
制作：一般社団法人 くすりの適正使用協議会  
日本医薬工業協会



## 調べてみよう！自分のくすり



医療機関で処方された医薬品の  
情報が調べられます



**RAD-AR**<sup>®</sup> 一般社団法人  
くすりの適正使用協議会